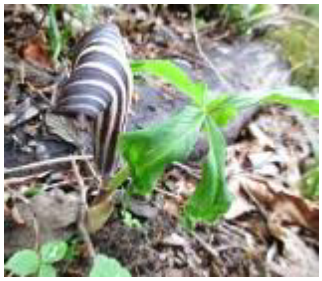
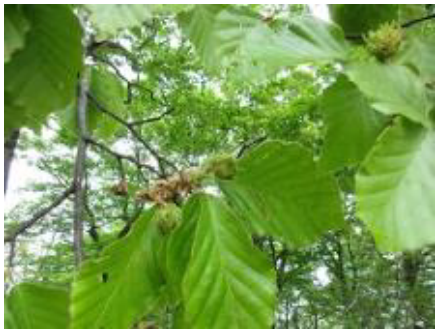
トリガタハンショウズル

エンレイソウ



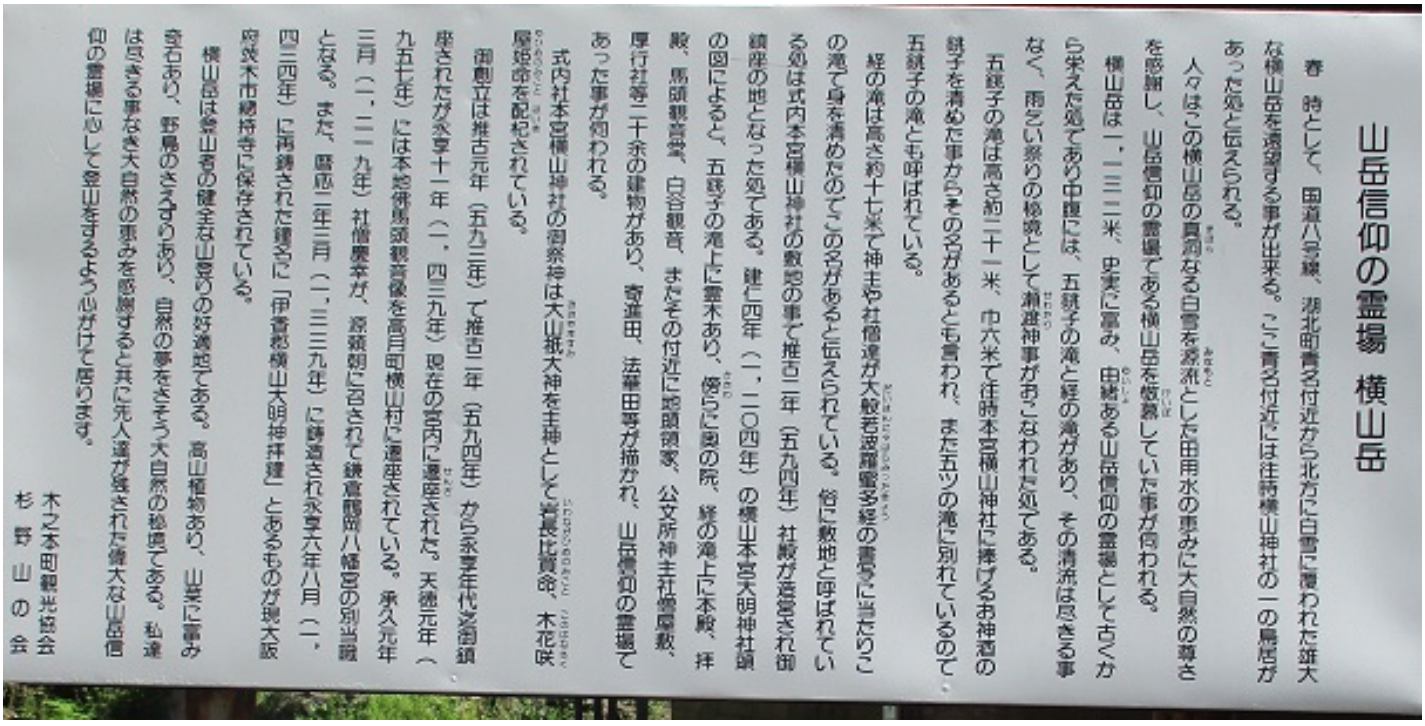
テンナンショウ



ブナの雄花と雌花

（次ページへ）

◆歴史



山岳信仰の霊場　横山岳

春　時として、国道八号線、湖北町青名付近から北方に白雪に覆われた雄大な横山岳を遠望する事が出来る。ここ青名付近には往時横山神社の一の鳥居があった処と伝えられる。

人々はこの横山岳の真洞なる白雪を源流とした田用水の恵みに大自然の尊さを感謝し、山岳信仰の霊場である横山岳を敬慕していた事が伺われる。

横山岳は一，一三二米、史実に富み、由緒ある山岳信仰の霊場として古くから栄えた処であり中腹には、五銚子の滝と経の滝があり、その清流は尽きる事なく、雨乞い祭りの秘境として瀬遊神事がおこなわれた処である。

五銚子の滝は高さ約二十一米、巾六米で往時本宮横山神社に捧げるお神酒の銚子を清めた事からその名があるとも言われ、また五ツの滝に別れているので五銚子の滝とも呼ばれている。

経の滝は高さ約十七米で神主や社僧達が大般若波羅蜜多経の書写に当たりこの滝で身を清めたのでこの名があると伝えられている。俗に敷地と呼ばれている処は式内本宮横山神社の敷地の事で推古二年（五九四年）社殿が造営され御鎮座の地となった処である。建仁四年（一，二〇四年）の横山本宮大明神社領の図によると、五銚子の滝上に霊木あり、傍らに奥の院、経の滝上に本殿、拝殿、馬頭観音堂、白谷観音、またその付近に総頭領家、公文所神主社僧屋敷、厚行社等二十余の建物があり、寄進田、法華田等が描かれ、山岳信仰の霊場であった事が伺われる。

式内社本宮横山神社の御祭神は大山祇大神を主神として岩長比賣命、木花咲屋姫命を配祀されている。

御創立は推古元年（五九三年）で推古二年（五九四年）から永享年代多御鎮座されたが永享十一年（一，四三九年）現在の宮内に遷座された。天徳元年（九五七年）には本地佛馬頭観音像を高月町横山村に遷座されている。承久元年三月（一，二一九年）社僧慶幸が、源頼朝に召されて鎌倉鶴岡八幡宮の別当職となる。また、嘉応二年三月（一，一七〇年）に鋳造され永享六年八月（一，四三四年）に再鋳された鐘名に「伊香郡横山大明神拝建」とあるものが現大阪府茨木市総持寺に保存されている。

横山岳は登山者の健全な山登りの好適地である。高山植物あり、山菜に事み幸石あり、野鳥のさえずりあり、自然の夢をさそう大自然の秘境である。私達は尽きる事なき大自然の恵みを感謝すると共に先人達が残された偉大な山岳信仰の霊場に心して登山をするよう心がけて居ります。

木之本町観光協会
杉野山の会